平成25年度採択プログラム 中間評価調書 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

	機関名	名古屋大学		整理番号	S02								
1.	全体責任者		ムの場合は、全ての構成大学 学長名に下線を引いてくださ		なりまとめを行っている大学(連合大学院によるもの								
		(ふりがな)	まつお せいいち	0									
	(学長)	」 (ありがな) 氏名•職名	松尾 清一▪ 総長	(名古屋大学総長)									
		10.41 40.41		(石口庄八子心及)									
2.	プログラム責任者	(ふりがな)	たかはしまさひで										
		氏名•職名		屋大学医学糸研究村	斗長・医学系研究科教授)								
	プログラム ーディネーター	(ふりがな) 氏名・ 職名	つかむら ひろこ	:十党 纷 匡龙伏,思女+	+日冬雨完長, 此合典尚可办利教授\								
					共同参画室長・生命農学研究科教授) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								
4.	類型	5~複合領域2	型(多文化共生社会)) >									
	プログラム名称	「ウェルビーイング	グ in アジア」実現の	ための女性リーダー	育成プログラム								
5.	英語名称	Women Leaders	Program to Promote	e Well-being in Asia									
	副題												
6.	授与する博士学 位分野・名称	術学)、博士(リ/		学)、博士(医学) 信	農学)、博士(看護学)、博士(医療技 け記する名称:「ウェルビーイング in								
	- # O.51	(① 社会医学) (② 教育学) (③ 社会経済	農学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入								
7.	主要分科	環境創成学、地域研究、ジェンダー、社会学、看護学、文化学、公共政策											
		(1)) (②) (③)※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入								
8.	主要細目		i生、教育社会学、社 ンダー、疫学・予防®		政策・環境社会システム、								
	専攻等名		全専攻、教育発達										
合は	こる専攻等がある場 下線を引いてくださ		↓全専攻、医学系研究 ∄力研究センター、男										
い。)													
10.	共同教育課程	・ を設置している場 [・]	合の共同実施機関名										
1 1	連合大学院と	て参画している場	場合の共同実施機関	夕									
	<u> </u>	C D E C C C C		т н									
12.	連携先機関名(他の大学等と連携し	た取組の場合の機関名、	研究科専攻等名)									
Ė					金(UNFPA)東京事務所、フィリピン大 全機構、国際連合地域開発セン								

14. プログラム担当者の構成 計 67 名 Γ 14.9 %] 42 Γ 女性の人数 人 **62.7** %] 外国人の人数 10 人 **79.1** % プログラム実施大学に属する者の割合 53 プログラム実施大学以外に属する者 14 プログラム実施大学に属する者 人 人 そのうち、大学等以外に属する者 そのうち、他大学等を経験したことのある者 47 人 9 人 15. プログラム担当者 現在の専門 役割分担 フリガナ 所属(研究科·専攻等)·職名 氏名 年齢 学位 (平成27年度における役割) (プログラム責任者) 大学院医学系研究科・総合医学 実験病理学 髙橋 雅英 タカハシ マサヒテ プログラム全体の統括・運営 専攻・教授 博士 (医学) (プログラムコーディネーター) 大学院生命農学研究科・生命技 家畜繁殖学、 プログラム実施に関する統括、企画委員 東村 博子 ツカムラ ヒロコ 術科学専攻 • 教授 博士 (農学) 会委員長 大学院国際開発研究科・国際開 地域計画学、教育 人材開発論、Ph.D. 岡田 亜弥 オカダ゛ アヤ 執行委員会、プログラム運営、国際連携 発専攻・教授 大学院国際開発研究科・国際開発 農村開発学, 博士 宇佐見 晃一 ウサミ コウイチ 実践的教育、フィールドワーク 専攻•教授 (農学) 大学院国際開発研究科・国際コ 歴史学、アメリカ研 究、博士(学術) 内田 綾子 ウチダ アヤコ 基盤教育 ミュニケーション専攻・教授 大学院国際開発研究科 国際開発 国際経済学·開発経 尚子 実践的教育、国際連携、インターンシップ 新海 シンカイ ナオコ 専攻・准教授 大学院国際開発研究科・国際開発 比較国際教育学、アフリカ研究 Ph.D. 山田 肖子 ヤマダ ショウコ 実践的教育、国際連携、インターンシップ 専攻•准教授 大学院国際開発研究科・国際協力 人間の安全保障, 平 実践的教育、フィールドワーク、インターン 由紀子 和構築、博士(平和 西川 ニシカワ ユキコ 専攻•准教授 大学院国際開発研究科·国際コ 晶子 坂部 サカヘ ショウコ 社会学、博士(文学) 基盤教育、フィールドワーク ミュニケーション専攻・准教授 社会教育学·生涯学 大学院教育発達科学研究科・教育 松田 武雄 マツタ゛ タケオ 習論、博士(教育 執行委員会、プログラム運営 科学専攻・教授 大学院教育発達科学研究科・教育 比較教育学、博士 西野 節男 ニシノ セツオ 実践的教育、インターンシップ 科学専攻・教授 (教育学) 大学院教育発達科学研究科・教育 教育人類学 比較教 育学、博士(教育 服部 美奈 ハットリ ミナ 実践的教育、基盤教育 科学専攻・准教授 大学院教育発達科学研究科・教育 河野 明日香 カワノ アスカ 実践的教育、フィールドワーク 習論、博士(教育 科学専攻·准教授 非行/犯罪心理学・ 大学院教育発達科学研究科·心理 河野 井子 コウノ ショウコ 臨床心理学、博士 基盤教育 発達科学専攻·准教授 (教育学) 大学院生命農学研究科・生物機構 植物病理学、博士 (農学) 川北 一人 カワキタ カス゛ヒト プログラム運営、国際連携、実践的教育 機能科学専攻•教授 大学院生命農学研究科・生命技術 家畜繁殖学、博士 プログラム運営、実践的教育、フィールドワ・ オオクラ サトシ 大蔵 聡 (農学) 科学専攻 • 教授 大学院生命農学研究科・生物機構 昆虫ウイルス学、博 士(農学) 池田 素子 *ላተፃ* モトコ 実践的教育、リーダーシップ教育 機能科学専攻·准教授 大学院生命農学研究科・生物圏資 森林生熊学·熱帯生 中川 弥智子 ナカカ゛ワ ミチコ 実践的教育、フィールドワーク 態学、博士(理学) 源学専攻•准教授 大学院生命農学研究科 生命技術 生物機能技術科学 ウエノヤマ ヨシ ヒサ 上野山賀久 実践的教育、フィールドワーク 博士(農学) 科学専攻•准教授 農学国際教育協力研究センタ-植物遺伝育種学、博 士(農学) 犬飼 義明 イヌカイ ヨシアキ 国際連携、実践的教育、評価 准教授 大学院医学系研究科·看護学専 公衆衛生学·健康科 榊原 久孝 執行委員会、プログラム運営、基盤教育 サカキハ・ラ ヒサタカ 学、博士(医学) 攻•教授 小児看護学、家族看 大学院医学系研究科 · 看護学専 浅野 みどり アサノ ミト・リ 護学、博士(看護 執行委員会、プログラム運営、実践的教育 攻•教授 大学院医学系研究科・医療技術学 医用放射線画像工 小寺 吉衛 コデ ラ ヨシェ 評価、国際連携、フィールドワーク 学、博士(工学) 臨床検査学·臨床微 大学院医学系研究科・医療技術学 川村 久美子 国際連携、基盤教育、実践的教育 カワムラ クミコ 生物学、博士(医 専攻•准教授

15. 7	プログラム担当者	一覧(続き)				
	氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
伊藤	恵美	イトウ IS		大学院医学系研究科・リハビリ テーション療法学専攻・准教授	身体障害の作業量 法学、高齢期の認知	国際連携、フィールドワーク、インターンシップ
入山	茂美	イリヤマ シケ゛ミ		大学院医学系研究科·看護学専 攻·教授	助産学·母性看護 学、博士(保健学)	国際連携委員、実践的教育、フィールドワーク
門松	健治	カト゛マツ ケンシ゛		大学院医学系研究科·総合医学専 攻·教授	生化学、博士(医学)	執行委員会、教育研究連携
寺﨑	浩子	テラサキ ヒロコ		大学院医学系研究科·総合医学専 攻·教授	眼科学、博士(医 学)	執行委員会、基盤教育、実践的教育、国際連携
浜島	信之	ハマジェノブュキ		大学院医学系研究科·総合医学専 攻·教授	医療行政学、博士 (医学)	基盤教育、実践的教育、国際連携
青山	温子	アオヤマ アツコ		大学院医学系研究科·総合医学専攻·教授	国際保健医療学·公 衆衛生学、博士(医 学)	基盤教育、実践的教育、国際連携、フィールドワーク
木村	宏	キムラ ヒロシ		大学院医学系研究科·総合医学専攻·教授	ウイルス学、博士 (医学)	基盤教育、リーダーシップ教育、フィールド ワーク
山本	英子	ヤマモト エイコ		大学院医学系研究科·総合医学専攻·准教授	産婦人科腫瘍学、博 士(医学)	基盤教育、国際連携、海外実地研修、フィールドワーク
榊原	千鶴	サカキハ゛ラ チツ゛ル		男女共同参画室・准教授	女性教育史、博士 (文学)	執行委員会、プログラム運営、リーダーシッ ブ教育
下村 詩	吉治	シモムラ ヨシハル		大学院生命農学研究科·応用分子 生命科学専攻·教授	栄養生化学、博士 (医学)	プログラム運営、実践的教育
竹中 -	千里	タケナカ チサ ト		大学院生命農学研究科·生物圏資 源学専攻·教授	森林環境化学、博士(理学)	プログラム運営、実践的教育、フィールドワーク
山内 章	·	ヤマウチ アキラ		大学院生命農学研究科·生物圏資 源学専攻·教授	作物学、博士(農学)	プログラム運営、実践的教育、国際連携
伊東	早苗	イトウ サナエ		大学院国際開発研究科·国際協力 専攻·教授	国際開発論、博士(開発学)	実践的教育、プログラム運営
島田	玄	シマダ ユズル		大学院国際開発研究科·国際協力 専攻·准教授	開発法学、インドネ シア法、博士(学術)	基盤教育、実践的教育、国際連携
石田 和	和人	イシダ カズト		大学院医学系研究科・リハビリ テーション療法学専攻・准教授	理学療法学、博士 (医学)	基盤教育、実践的教育
福永	敬	フクナガ ケイ		大学院国際開発研究科・ウェル ビーイング特任准教授	アジア研究、修士 (国際学)	海外実地研修、海外研修演習、カリキュラム
Andy [Bangkit Stiawan	アンディー バンキット セティアワン		大学院教育発達科学研究科・ウェ ルビーイング特任准教授	教育思想、思想史 学、博士(学術)	国際連携、海外実地研修、管理運営
香川	憲夫	カガワ ノリオ		大学院医学系研究科・総合医学専 攻・ウェルビーイング特任准教授	生化学、構造生物化学、博士(理学)	アドミッションリクルート、管理運営
Saw Y	u Mon	ソウ ユモン		大学院医学系研究科・ウェルビー イング特任講師	国際保健学、博士(医学)	アドミッションリクルート、国際連携
施莉	莉	シリリ		大学院国際開発研究科・ウェル ビーイング特任助教	国際開発学、修士 (国際開発)	アドミッションリクルート、国際連携
砂野	唯	スナノ ユイ		大学院生命農学研究科・ウェルビーイ ング特任助教	生態人類学·地域研 究学(博士)	海外実地研修,アドミッション・リクルート
高橋	実鈴	タカハシ ミス ズ		大学院生命農学研究科・生物圏資源学 専攻・ウェルビーイング特任助教	植物遺伝育種学、博士(農学)	アドミッションリクルート、企画評価
家田	菜穂子	イエダ ナホコ		大学院生命農学研究科・生命技術科学 専攻・ウェルビーイング特任助教	家畜繁殖学、生殖内 分泌学、神経内分泌 学、博士(農学)	カリキュラム、アドミッションリクルート、国際 連携
里中	綾子	サトナカ アヤコ		大学院医学系研究科・ウェルビー イング特任助教	理学療法学、博士 (医学)	カリキュラム、企画評価
山品	博子	ヤマシナ ヒロ コ		大学院医学系研究科・ウェルビー イング特任助教	国際保健学、社会疫 学、博士(医学)	海外実地研修、企画評価、管理運営
牟 萍		ムー ピン		大学院医学系研究科・ウェルビー イング特任助教	分子生物学、博士 (医学)	海外実地研修

					[公衣]
15. プログラム担当者	6一覧(続き))			
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
翁 良	ウェン リャン		大学院医学系研究科・総合医学専 攻・ウェルビーイング特任助教	腫瘍病理学、博士 (医学)	アドミッションリクルート、管理運営
Nicola Stephanie Skoulding	ニコラ ステファ ニー スカウル ディング		大学院生命農学研究科・ウェル ビーイング特任助教	タンパク質性化 学、 英語教育、 分子細胞生物学 (博士)	カリキュラム, アドミッションリクルー ト、企画・評価
(その他の大学)					
清水 嘉与子	シミス゛カヨコ		公益財団法人 水と緑の惑星保全機構・会長、国際看護交流協会理事長、日本看護連盟会長、元環境庁 長官	看護学、学士(衛生 看護学)	リーダーシップ教育
名取 はにわ	ナトリ ハニワ		元内閣府男女共同参画局長	ジェンダー法学、修 士(政治学)	実践的教育、リーダーシップ教育、評価
戸田 隆夫	トダ タカオ		国際協力機構(JICA)·人間開発部·部長	国際協力論、人間開 発論、博士(国際開 発学)	国際連携、実践的教育、インターンシッ プ
平林 国彦	ヒラバヤシ クニヒコ		国連児童基金(UNICEF)・東京事 務所・代表	子どもの権利・国際 開発政策・保健栄養 政策、博士(医学)	実践的教育、国際連携、インターンシップ
佐崎 淳子	サザ*キ ジュンコ		国連人口基金(UNFPA)·東京事務 所·所長	人口と開発、リプロ ダクティブ・ヘルス、 ジェンダー平等、 MA(国際関係学)、 MSc.(人口統計学)	実践的教育、国際連携、インターンシッ プ
Lourdes N. Pagaran	ルゥテ゛ス ハ゜カ゛ラン		世界銀行(World Bank)Senior Operations Officer	Development Effectiveness Ph.D.	実践的教育、国際連携、インターンシップ
Araceli O.Balabago	アラセリ オカンホ゜ハ'ラハ'グノ		フィリピン大学・看護学科長	看護教育、成人看 護、Ph.D.	国際連携
Kajsa Wid e'n	カイサ ヴィデン		ルンド大学・男女共同参画室・室長	男女共同参画学士 (文学)	リーダーシップ教育
横山 和子	ヨコヤマ カス゛コ		東洋学園大学大学院現代経営研究科·現代経営学部·教授	人的資源管理、グローバル人材育成、博士(経済学)	実践的教育、国際連携
西澤 真理子	ニシサ゛ワ マリコ		株式会社リテラシー(Litera Japan Corporation)・代表	リスク政策、リスク・ コミュニケーション、 Ph.D.	実践的教育、リーダーシップ教育
Pheng Vutha	ペン ブッタ		カンボジア王立農業大学・講師	家畜繁殖学、博士 (農学)	国際連携、実践的教育、フィールドワーク
前多 敬一郎	マエダ ケイイチロウ		東京大学大学院農学生命科学研究科・獣医学専攻・教授・カンボジア王立農業大学・併任教授	獣医学、博士(農 学)	実践的教育、フィールドワーク、国際連 携
垂井 美枝子	タルイ ミエコ		元国連児童基金(UNICEF) 本部人 事局次長・国際人事管理コンサル タント	国際人事管理、修士 (人事管理学)	国際連携、リーダーシップ教育、キャリ ア開発支援、評価
高瀬 千賀子	タカセ チカコ		国際連合地域開発センター (UNCRD)所長	経済学、修士(経済学)	国際連携、リーダーシップ教育、イン ターンシップ

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし.平成28年度は提出日現在))

			<u>(各年度3月31</u> 日規2	<u>在(たたし半成28年</u>	<u>:度は提出日現在))</u>				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 * (今後の募集予定: (有)・無)				
プログラム募	集定員数(実数)	-	20人	20人	20人				
		-	29人	26人	人				
	うち留学生数	-	9人	14人	人				
① 応募学生数	うち自大学出身者数	- (人)	10人 (0人)	6人 (0人)	人 (人)				
① 心劵子生剱	うち他大学出身者数	- (人)	19人 (9人)	20人 (14人)	人 (人)				
	うち社会人学生数	- (人)	15人 (4人)	13人 (8人)	人 (人)				
	うち女性数	- (人)	22人 (7人)	20人 (11人)	人 (人)				
		-	20人	19人	人				
	うち留学生数	ſ	6人	8人	人				
② 合格者数	うち自大学出身者数	- (人)	10人 (0人)	7人 (0人)	人 (人)				
6 日相省数	うち他大学出身者数	- (人)	10人 (6人)	12人 (8人)	人 (人)				
	うち社会人学生数	- (人)	8人 (3人)	10人 (6人)	人 (人)				
	うち女性数	- (人)	16人 (5人)	15人 (7人)	人 (人)				
		ı	20人	18人	人				
	うち留学生数	-	6人	8人	人				
③ ②のうち受講学生	うち自大学出身者数	- (人)	10人 (0人)	7人 (0人)	人 (人)				
数	うち他大学出身者数	- (人)	10人 (6人)	11人 (8人)	人(人)				
	うち社会人学生数	- (人)	8人 (3人)	10人 (6人)	人(人)				
	うち女性数	- (人)	16人 (5人)	14人 (7人)	人(人)				
	①応募学生数/②合格者数) 三位を四捨五入)	-	1. 45倍	1. 37倍	0.00倍				
充足率(合格	者数/募集定員)	-	100.00%	95. 00%	0.00%				

[※]留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を 記入してください。

[※]平成28年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に 印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。 ※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数 各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程 (各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在)) 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成 平成 学位プログラムの受講学 2930年度年度 生数等 M2 D1 D3 M2 D1 D2 D3 M1 D1 D2 D3 M2 D2 D3 M1 M2 D1 D2 計 計 計 計 (D1) (D4) (D5) (D2) (D3) (D4) (D5) (D4) (D5) (D1) (D2) (D4) (D2) (D1) (D2) (D3) (D3) (D5) (D3)(D1)うち留学生数 うち自大学出身者数 平成 2 5 うち他大学出身者数 年度 選抜 うち社会人学生数 うち女性数 19 20 19 16 うち留学生数 うち自大学出身者数 10 10 平成 2 6 うち他大学出身者数 10 年度 選抜 うち社会人学生数 15 15 12 うち女性数 15 18 18 18 うち留学生数 平成 うち自大学出身者数 年度 うち他大学出身者数 11 11 11 11 選抜 10 うち社会人学生数 10 14 うち女性数 14 うち留学生数 うち自大学出身者数 平成 2 8 うち他大学出身者数 年度 選抜 うち社会人学生数 うち女性数 19 37 うち留学生数 うち自大学出身者数 計 うち他大学出身者数 うち社会人学生数 うち女性数 修了者数(予定者を含む) 0 0 0 0 16 就職者数 0 0 2 プログラム対象学生以外で、 56 17 0 -部を受講している学生数 ※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

^{※「}修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

^{※「}就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

[※]辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数 各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。 ②医・歯・寒・獣医学の4年制博士課題

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程							1				-		(各年月	度3月3	見在(ただし平成28年度は提出日現在))							
学位プログラムの受講学生数 等		平成25年度						平成	₹264	年度		平成27年度					平成28年度					平成 2 9	平成 3 0
	7		D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	年度	年度
			-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち留学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
平成	うち自大学出身者数	-	-	-	_	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
2 5 年度	うち他大学出身者数	-	-	-	_	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
選抜	うち社会人学生数	-	-	-	_	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち女性数	-	-	_	_	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
							-	-	-	-	0	1	-	-	-	1	1	1	-	-	2	$\overline{}$	
	うち留学生数						-	-	-	-	0	0	-	-	-	0	1	0	-	-	1		
平成	うち自大学出身者数						-	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	0	$\overline{}$	
2 6 年度	うち他大学出身者数						_	-	-	-	0	1	-	-	-	1	1	1	_	-	2		
選抜	うち社会人学生数						-	-	-	-	0	1	-	-	-	1	0	1	-	-	1	$\overline{}$	
	うち女性数						-	-	-	-	0	1	-	-	-	1	1	1	-	-	2		
									/			-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	$\overline{/}$	
	うち留学生数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
平成	うち自大学出身者数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
27 年度	うち他大学出身者数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
選抜	うち社会人学生数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	$\overline{}$	
	うち女性数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
		$\overline{}$						$\overline{}$	$\overline{}$	$\overline{}$			$\overline{/}$			/	-	-	-	-	0	$\overline{/}$	
	うち留学生数																-	-	-	-	0		
平成	うち自大学出身者数																-	-	-	-	0	$\overline{}$	
28年度	うち他大学出身者数																-	-	-	-	0	$\overline{}$	
選抜	うち社会人学生数																-	-	-	-	0		
	うち女性数						/					$\overline{}$					-	-	-	-	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2		
	うち留学生数												$\overline{}$								1		
表	うち自大学出身者数															$\overline{/}$					0		
計	うち他大学出身者数															$\overline{/}$					2		
	うち社会人学生数															$\overline{\hspace{1em}}$					1		
	うち女性数																				2		
修了	者数(予定者を含む)	0			0				0				0					0	(
	就職者数			0					0					0									
グラムの	・ム対象学生以外で、プロ)カリキュラムの一部を受 ・る学生数			0				0				0				0							

^{※「16.} プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

^{※「}修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

^{※「}就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

[※]辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング(豊かな生活を実現し権利を保障する)をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食(量的確保と安全)、環境(衛生)、健康(医療、福祉)、社会(脱貧困)、教育(次世代育成)における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける"ウェルビーイング"の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率(日本の約数十倍)などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題である。新たな「統合知」を目指す本プログラムは、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

【組織】国際開発、生命農学、医学(医学科・保健学科)、教育発達科学研究科の4研究科、および男女共同参画室、農学国際教育協力研究センターからなる研究教育支援のプラットフォームを設置し、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家らが担当する教育プログラムと、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなるリーダー育成プログラムを実施する。

〈プログラム〉女子学生を対象とするが、男女共同参画を支える男子学生にも本プログラムへの参加を認める。 学生の成長に応じた M1~D3 の5年間を通じた段階的教育プログラムである。アジア各国連携機関等における 「実践的教育」、5 年間の徹底した「語学力・発信力強化プログラム」、 4 研究科合同での副指導教員制、産官 学の各関連分野のエキスパートによる「**リーダーシップ教育」**などにより、高度な研究推進能力に加え、コア 能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」の獲得を推進し、グローバル企業・国 際開発・協力分野での意思決定を担う女性リーダーを育成する。 M: 自己とアジアにおけるウェルビーイング課 題の発見を促し、グローバル視点を養うための基盤教育。留学生との合同合宿 (All Night Cross-Cultural Talk; M1~D3 毎年実施)、対象国学生との合同チームによる課題発掘をテーマとした海外での**ディスカバリー研修**等。 M2: 博士課程研究課題設定に向けた基盤教育。研究テーマ設定の為の予備調査・対象地でのネットワーク作り のための**海外プラットホーム研修、ディベートカ強化プログラム**等。D1:キャリアプランと博士研究課題研究 を確実にするための海外フィールド調査(約半年)、リーダーシップ教育、国際機関でのインターンシップ(短 期)等。D2:確実な研究能力・実務能力やリーダーシップ力を磨き、研究成果の学会や論文による発表や将来 ビジョンの発信力を強化。D3:博士論文完成、キャリア形成支援。D2 年次で D 論文作成を終え、Qualifying Examination で優秀な成績を収めた学生には、PhD 取得後のキャリアパスとなる国際機関等でのインターンシッ プ(約1年間)を実施。キャリア継続支援:本籍専攻の教員に加え、1名以上の他研究科教員が学生の指導に あたる。男女共同参画室が各々の学生に適した**女性メンター**をコーディネートする。また、D1-D3 女子院生が、 M1-M2 のプログラムに指導的に参加する**ピアサポート**により、世代を超えた女性リーダーの協力体制を築く。

《評価・質保証》M2 から D1 への進学時に、本プログラム運営委員会が定めるチームにより、研究課題、語学力習得度、ディベート力、研究成果等を総合評価し、一定の水準に達した学生のみを本プログラム D 学生として認める。プログラム修了時(博士学位取得時)に、研究成果、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」獲得状況と研究成果を総合的に判断し、一定の水準に達した学生に本プログラムのディプロマを授与する。

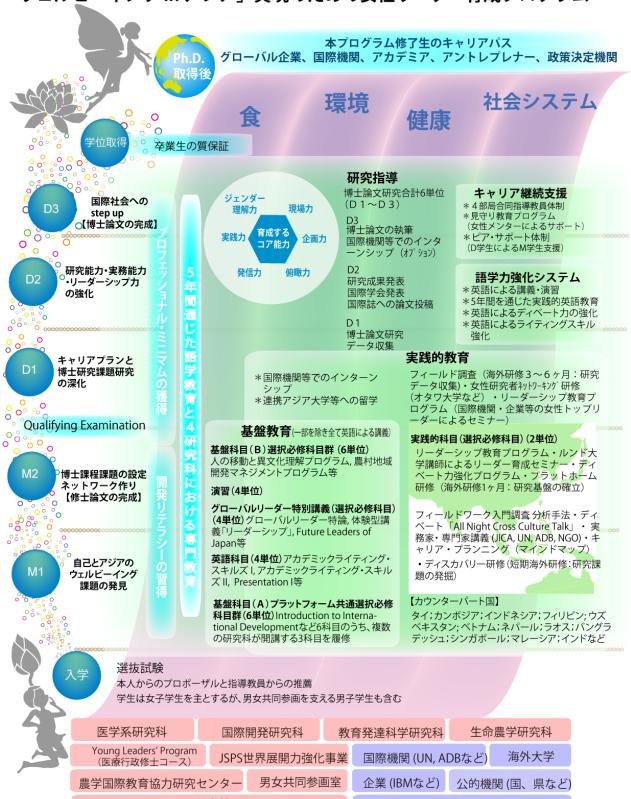
【特色】本プログラムの特色は、高い専門性と国際性と使命感を有する女性リーダーを育成する点である。アジアの多文化共生に資するウェルビーイングの実現のため、食、健康、環境、教育、社会システム分野の「統合知」に立脚する女性リーダーを育成し、未だ潜在力にとどまる女子学生を、グローバルに活躍できるリーダーとして育成する点にある。

【優位性】本学の優位性は、男女共同参画推進および国際協力事業の実績にある。10 年以上にわたる全学あげての男女共同参推進の取り組みにより、国立大学女性教員実数増1位(2012年現在)、国立基幹7大学中女性教員比率1位の実績をもつ。H27年度には、UN Women 主催の"HeForShe IMPACT 10x10x10 initiative"の世界10大学の一つに選ばれた。また、担当する4研究科は女性教員・女子学生比率も高く、多くのロールモデルと将来リーダーとなる女子学生を擁する。さらに、アジアをはじめ世界各地に多くの提携校を有し、国際機関、NGO、企業とも広いネットワークを築き、国連とのMOU 締結を進めるなど、研究協力、インターンシップ等、豊富な国際交流実績を有していることも優位な点である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム



学外連携機関

学内機関